

稲畑産業株式会社 2021年3月期決算 オンライン決算説明会 質疑応答要旨

日時 : 2021年6月3日(木) 13:00~14:00

説明者: 稲畑社長

【株主還元】

Q: 株主還元について伺いたい。累進配当を導入した意図はどのようなものか?

A: 株主還元策は、配当による還元を従来から重視している。過去10年の配当額推移を見ると分かる通り、大幅な減益となった2018年3月期も減配はせずに、前期と同額の配当を維持した。新中期計画NC2023をスタートするにあたり、株主還元をより一層重視する観点から、NC2023期間中は減配せず、継続的に増加させていく累進配当の導入を開示した。

【新中期計画 NC2023】

Q: NC2023では、前中期計画で掲げていなかったROE指標を8%以上として目標に入れたが、意図と達成可能性を伺いたい。

A: ROEが投資家の皆様に重視されていることは理解していたが、一方で、当社の場合、ROEの分母に当たる自己資本に占める「その他有価証券評価差額金」の金額が比較的大きく、株式相場の変動で変動するため、指標としてコントロールし難い状況だった。NC2023において、政策保有株式の期間中の縮減方針を示したこともあり、ROEも重要な指標として開示する方針とした。ROEの実績値は、2020年3月期7.4%、2021年3月期は一過性の経費減もあり、8.6%だった。NC2023の各施策が順調に進めば、8%以上は十分達成可能なレベルと考えている。まずは8%をクリアし、さらにその先に進んでいきたい。

Q: NC2023の3年間の成長投資・定常投資の計画額は開示できるか? 成長投資はどのような案件があるか? コンパウンド拠点の新增設計画は織り込んでいるか?

A: 前中期計画では、投資額の目途を持っていた。NC2023では、開示は予定していないが、製造拠点への定常投資は従来と同レベルになるだろう。成長投資について、例えばコンパ

ウンド拠点の新增設計画は、近いところではフィリピンで 2 ラインの設備増強を織り込んでいる。生産能力は 6,000MT/年増える。現在のところ、他にコンパウンド関連の具体的な増設計画は予定していないが、自動車関連向けのメキシコ拠点は可能性がある。

Q： NC2023 で政策保有株式の縮減方針を出した。売却で得た資金はどのように配分するのか？

A： 従来からコーポレートガバナンス・コードに則り、縮減を進めてきたが、より保有の合理性を検討した結果等を踏まえて、50%削減の方針を掲げた。以下の3つにバランスよく配分するが、非常に大事な部分である①将来の成長に向けた投資、併せて②株主還元にも配慮していく。③財務基盤の強化：従来、当社の財務基盤は順調に強化してきたが、さらに強化していく必要があるとも考える。②株主への還元は、従来通り「総還元性向 30-35%」は、指標として念頭において進めていく。①将来の成長に向けた投資は、従来の現場から上がってくる案件だけでなく、新規の案件をもう少し積極的に探しに行く取り組みを既に始めている。

【液晶関連ビジネス】

Q： 情報電子事業の液晶ビジネスについて、2022年3月期の市場と貴社の販売見通しはどうか？

A： FPD 分野は、この状況においても高稼働を続け、販売は好調だった。21/3期は巣ごもり需要の特需が含まれていたことは否めない。22/3期は、依然、需要は旺盛な状況だが、その反動も少しは出てくるのではないかとみている。非常に好調だった 21/3期と比べると弱含むとみているが、全体として大型パネルを中心に面積の大型化が進んでいるため、総面積は緩やかな成長が今後も続くともみている。したがって、当社の主力商材の販売も前期並みでは推移するという見方をしている。